令和 6 年度 中学 3 年生の「農業体験」・「漁業体験」に関するアンケート調査（結果報告）

目指す姿：子どもたちに農業・漁業体験の機会を増やす（多世代、他地域とのつながりの中での体験）

調査目的：「農業・漁業体験への参加意向」を把握し、学校以外での体験や中学校での宿泊体験等の関与を考察し、体験の機会の必要性を見出す。

質問	農業体験	漁業体験	考察・まとめ
参加の有無	<p>【参考】令和 6 年食育に関する意識調査(20 歳以上対象) 農林漁業体験（田植え、稲刈り、野菜の収穫、家畜の世話等）全国 63.2%、東京・近畿圏 57.2%、地方圏 67.8% <u>墨田区の中学 3 年生は 82.2%と、比べるとかなり高い（学校での体験を含むためか？）</u></p> <p>学校での栽培体験も含めての質問であったが、バケツ苗、じゃがいも、トマトなどを、教科の中で育てているはずにも関わらず、2 割弱が体験したことが無いと回答。</p>	<p>【参考】令和 6 年食育に関する意識調査(20 歳以上対象) 農林漁業体験（田植え、稲刈り、野菜の収穫、家畜の世話等）全国 63.2%、東京・近畿圏 57.2%、地方圏 67.8% <u>墨田区の中学 3 年生は 66.1%と、予想より参加したことがある人が多かった。</u></p> <p>学校の宿泊体験も含めての質問であったためか。</p>	<p>農業体験ありは、82.2% * 100%近い回答を見込んだが、2 割弱が体験したことが無いと回答している。 自分で育てた実感が少ない？ 漁業体験ありは、66.1% 昨年度とほぼ同様。</p>
参加した内容 (複数回答)	<p><u>学校関連で体験する人が多い（授業 634、宿泊 178）。</u> なお、学校以外での体験の合計は 760。 学校の授業で体験した割合が回答数の約半数を占めているが、本来全員が体験しているはずだが、記憶にないのか。</p>	<p><u>「学校の宿泊体験」（490）が最も多く、回答者の 4 割を占めている。昨年度と比較すると家庭での体験が増加しており、学校での宿泊体験と合わせると全体の約 8 割を占めている。</u></p> <p>コロナが 5 類に移行して落ち着いた影響か。 また、「学校の授業」の回答者が、5%増加している。</p>	<p>「家庭」の割合がまだ少ないことから、体験格差を生じさせてないためにも、学校での授業、宿泊体験等での体験学習は今後も継続する必要がある。</p>

質問	農業体験	漁業体験	考察・まとめ
体験への参加意思	<p>ぜひ参加したい 19.0% 内容によっては参加したい 60.5% (計 79.5%)</p> <p>「参加したいと思わない」人 20.2% を「参加したい」と思うようなアプローチや企画が必要。</p>	<p>ぜひ参加したい 21.3% 内容によっては参加したい 54.1% (計 75.4%)</p> <p>「ぜひ参加したい」人の割合は農業よりも高い。農業と同様、「参加したいと思わない」人 (23.9%) が「参加したい」と思うようなアプローチや企画が必要。</p>	<p>農業・漁業体験ともに「ぜひ参加したい」と「内容によっては参加したい」が7割強。「参加したいと思わない」人約2割のうち、参加したくない理由は、農業・漁業ともに、「関心がない」が一番高い。この層を少しでも「ぜひ参加したい」と「内容によっては参加したい」に変容させるアプローチが必要である。</p>
一緒に参加したい人	<p>友人と一緒に参加したい人 75.1%と多い</p>	<p>「友人と参加したい」が73.0%と多い。</p>	<p>参加するなら「友人」。「友人」と一緒に参加できるものを企画していくと良いと思われる。</p>
参加する主な目的	<p>「おいしいものを食べたい (30.1%)」「自然を満喫したい (25.1%)」が多い。…<u>個人の満足</u> <u>農業や食への理解を深める、地域の人や家族とのふれあいへの意識を高めるためには。</u></p>	<p>「おいしいものを食べたい (29.6%)」「自然を満喫したい (27.5%)」が多い。…<u>個人の満足</u> <u>漁業地域の人や家族とのふれあいへどうつなげるか。</u></p>	<p>個人の満足の割合が高い。イベントのきっかけとしては良いが、その先の理解へどうつなげるか。個人の満足から農業・漁業や食への理解を深める、多世代、他地域とのつながりの中での体験ができる企画が必要である。(企画の中にかに多様性を加えるか)</p>
参加したい体験内容 (農業) 参加したい場所 (漁業)	<p>「収穫のみ」54.4%…「とる」「食べる」のみに直結。「種まき・田植えなど、収穫前」(10.9%)「種まきから収穫までの一連の体験」(32.4%)となっており、野菜等が育まれる過程を体験したい人の割合は少ない。</p>	<p>「近いところ」が40.6%と多い。一方で、「どこでもよい」と回答した人も33.7%。昨年度とほぼ横ばい。場所にはこだわりがない人も多くなっていた。</p>	<p>理由は不明だが、農業体験で、「栽培」の過程への参加意向が2年連続で低くなっている。</p>

	農業体験	漁業体験	考察・まとめ
参加体験ある	参加したことがある生徒は、（ぜひ、内容によってはとの回答 82.2%）次につながるがわかる。 一方、参加したことがある人の 17.8%が「参加したくない」と回答しており、その理由として最も多かったのが「関心がない」（72.2%）だった。	参加したことがある生徒は、（ぜひ、内容によってはとの回答 80.2%）次につながるがわかる。 <u>体験があると次への可能性</u> がある。 一方、参加したことがある人の 19.9%が「参加したくない」と回答しており、その理由として最も多かったのが「関心がない」（62.9%）だった。	体験があると次への可能性はある。 参加したことがあるのに「参加したくない」と回答した人の最も多い理由が「関心がない」となっており、体験した結果、関心を無くしてしまったことが推察される。
参加体験なし	参加したことがない生徒のうち、67.3%の生徒は「参加したい」と思っている。 「参加したことがない」生徒のうち、31.3%が「参加したくない」と回答しており、その理由として最も多かったのが「関心がない」（79.1%）だった。	参加したことがない生徒のうち、66.0%の生徒は「参加したい」と思っている。 「参加したことがない」生徒のうち、31.9%が「参加したくない」と回答しており、その理由として最も多かったのが「関心がない」（61.9%）だった。	参加したことがない生徒のうち、6割強の生徒は「参加したい」と思っている。この子どもたちにどうやってアプローチをしていくかが課題。
学校の授業・遠足	ぜひ参加したいと思う 18.8% 内容によって参加したいと思う 63.1%（合計 81.9%） <u>学校での授業・遠足を経験することによって8割以上参加したい</u> となった。	ぜひ参加したいと思う 28.1% 内容によって参加したいと思う 53.8%（合計 81.9%） <u>学校での授業・遠足を経験することによって8割以上参加したい</u> となった。	学校で体験することで8割は「参加したい」と思っている。 体験することによる参加の意向は、農業体験は「宿泊体験」の方がやや高く、逆に漁業体験は「授業・遠足」の方がやや高い結果となった。
学校の宿泊体験	ぜひ参加したいと思う 27.0% 内容によって参加したいと思う 61.8%（合計 88.8%） <u>宿泊なしの体験よりもやや参加意向が高かった。</u>	ぜひ参加したいと思う 22.5% 内容によって参加したいと思う 56.2%（合計 78.7%） <u>宿泊なしの体験よりもやや参加意向が低かった。</u>	
参加意向	農業体験への参加意向が高いほど、一部ではなく、一連の体験をしたいと希望する生徒の割合が多かった。 「内容によっては参加したい」と回答した生徒のうち、55.7%は「収穫のみ」の体験を希望している。	漁業体験への参加意向が高いほど、「遠くても本格的な体験」を希望する生徒の割合が多かった。 「内容によっては参加したい」と回答した生徒のうち、35.9%は「どこでも良い」と回答している。	農業・漁業ともに参加意向が高い人ほど本格的な体験を希望する割合が高い。

【今後の取組について】

農業・漁業体験の機会を増やす（多世代、他地域とのつながりの中での体験）

個人の満足（自然を満喫したい、おいしいものを食べたい）だけでなく、多世代・他地域、生産者とのつながりのある企画の工夫が必要である。

学校以外での体験、体験の機会の必要性

「家庭」での参加は多いが、「地域」が少なく、「家庭」が「地域」で参加できるような取組を区などが支援していけると良い。

中学校での宿泊体験等の関与、体験の機会の必要性

「遠足」または「宿泊」の体験者の参加意向は8割、両方の体験者は8割を超えており、効果が見込まれる。

家庭や地域のみでは、体験格差が生じてしまう恐れがあるため、学校における体験は一定数必要だと思われる。

【その他】

農業・漁業体験とともに...「自分で育てたものを食べると、より一層美味しく感じた。」「ますのつかみ採りで命の大切さを学んだ。」

「達成感を感じた」「食に対する感謝が深まった」「漁師の人は海にでて魚をとってくるから大変だから残さないようにしようと思った」

「稲ができるまでの過程がとても苦労した。ふだん、なにげなく食べられているのは、農家の方のおかげなので、感謝したい。」「将来は漁師になろうと思いました。」等体験をしたことで、食べ物に対する意識だけでなく、そこに関わる生産者の方に対する感謝の想いや、将来の選択肢の1つになるなど、様々な効果があったことが推察できた。

国の「食育に関する意識調査」に倣い、「体験したことによる変化」に関する設問を入れるか要検討。

漁業体験をして感じたことや印象に残ったこととして、小学5年生で体験したあわの自然学園での「ますつかみ」をあげている生徒も多く、あわの自然学園（令和3年度閉園）が閉園以降に、小学5年生となる子どもたちが、今後、漁業体験の数値に変化がある可能性もある。

また、コロナ禍で体験ができなかった影響も令和7年度の調査以降に出る可能性が高いことが推測される。

農業体験において、一昨年、昨年と、少しずつ一連の育てる過程に興味がある子が減少し、収穫のみに興味がある子が増えており、収穫という結果だけではなく、育てる過程にも興味を持ってもらうアプローチが必要だと推測される。